

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	○確かな学力の育成
目標（評価規準）	校内研修、研究授業を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図り、生徒一人ひとりに資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する。	
重点に係る現状 設定理由	今年度完全実施の学習指導要領が求める資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性」）をバランスよく育成するため、校内研修・授業研究をとおして「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業改善を進め、これら三つの力をバランスよく育成するように努めたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<p>教職員の回答は、すべての設問において概ね肯定的であった。</p> <p>①「授業や指導法の工夫」および②「授業に意欲をもって取り組む」ことについて、100%が肯定的回答であった。</p> <p>③「適時適切な学習評価」について、77.3%が肯定的回答であった。</p> <p>④「家庭学習の取組み」について、90.9%が肯定的回答であった。</p>
各アンケート等の結果	<p>生徒・保護者とも①～③の質問項目については肯定的回答が過半を占めていた。また、生徒の肯定的回答率が、保護者の肯定的回答率を上回る傾向が見られた。</p> <p>①「授業や指導法の工夫」について、生徒の86.6%、保護者の62.3%（「判断できない」28.9%を除くと87.7%）が肯定的回答であった。</p> <p>②「授業に意欲をもって取り組む」ことについて、生徒の78.2%が肯定的回答であるのに対して、保護者は69.3%であった。</p> <p>③「適時適切な学習評価」について、生徒の85.2%、保護者の71.1%（「判断できない」13.2%を除くと81.8%）が肯定的回答であった。</p> <p>④「家庭学習の取組み」について、「1時間以上」の生徒が43.7%（1年：22.9%、2年：35.1%、3年：74.0%）にとどまり、「30分以下」の生徒が25.7%を占めていた。また、保護者の肯定的回答は72.8%であるものの、21.9%は否定的回答であった。</p>
自己評価結果 （見解と改善方策）	<p>※すべての項目とも、生徒、保護者から高い評価が得られており、学校の取組みが概ね浸透、理解されていると考える。</p> <p>①「授業や指導法の工夫」および③「適時適切な学習評価」について、アンケート結果を見る限り、教職員の取組みが生徒・保護者におおむね理解・評価されていると考える。しかし、①「授業や指導法の工夫」について、保護者の肯定的回答は昨年度より微増したものの、「判断できない」という回答が28.9%であることはいまだ課題である。</p> <p>②「授業に意欲をもって取り組む」ことについて、保護者の20.2%が否定的な回答であることは課題である。</p> <p>④「家庭学習の取組み」について、家庭での学習時間が少ないこと、保護者からの働きかけがないことは、大きな課題である。</p> <p>⇒①「授業や指導法の工夫」および③「適時適切な学習評価」について、授業や学習評価は生徒・保護者との信頼関係を築く上で要となるものであり、授業改善や学習評価の取組みを今後も充実させるとともに、教職員の取組みについてさらなる発信を行う必要がある。</p> <p>⇒④「家庭学習の取組み」について、「1時間以上」という生徒の回答は学年が上がるにつれ上昇しているものの課題である。②「授業に意欲をもって取り組む」ことともあわせて、学習習慣について家庭や小学校と連携を図ったり、生徒の学習意欲を地道に喚起したりしていきたい。</p>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校に入るとどのように勉強したらよいかかわからないという子が多いようなので、どのように学ぶのかという点も充実させてほしい。</li> <li>・家庭学習について、一般に「宿題」という捉えをするが、小学校高学年では与えられる宿題から自主的、主体的な学びを促している。小学校の学びが中学校の学びにどうつながるかが大切である。</li> <li>・「書くこと」や「体力」について、最近の子どもたちは欠けているように感じる。よりいっそう充実させてほしい。</li> <li>・三崎の子どもたちは「学校大好き」、「友だち大好き」、でも「勉強嫌い」という子が多い。素直で、単純なところもあるので、ぜひきっかけを作ってほしい。</li> </ul>
最終改善方策	<p>○引き続き校内研究（授業研究）を充実させ、生徒の主体的に学習に取り組む態度や学習意欲の向上をめざすとともに、授業改善および学習評価の取組みを推進する。また、教職員の取組みを生徒、保護者と共有していく。</p> <p>○家庭学習の取組みや粘り強く学習に取り組む態度の涵養について、保護者や小学校との連携を図るとともに、学習方略まで踏み込んだ指導やタブレット端末によるe-ラーニングのさらなる活用など、新たな方策を模索する。</p>

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	○豊かな社会性の涵養
目標（評価規準）	基本的生活習慣の定着を図るとともに、「互いに認め合い、支え合い、高め合う集団づくり」を通して生徒一人ひとりの豊かな社会性の涵養に努める。	
重点に係る現状 設定理由	変化の激しい予測困難な社会を生きる生徒には、自らの人生を形作り、他者の人生に貢献していくための当事者意識や目的意識、必要な資質・能力を身につけさせる必要がある。そこで、自ら考えて責任ある行動をとれる主体性をもった生徒を育成するため、学校という集団生活の場をとおして豊かな社会性の涵養に努めたい。今年度は、家庭と連携しながら基本的な生活習慣の定着、規範意識や社会的マナーの伸張を重点とする。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>教職員の回答は、すべての設問において概ね肯定的であった。</p> <p>①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」についての設問には、95.5%が肯定的な回答であった。                  ②「社会のルールや学校のきまり」についての設問には、90.9%が肯定的な回答であった。                  ③「多様な人と関わり協働した学校生活」についての設問には、95.5%が肯定的な回答であった。                  ④「責任ある行動をとること」についての設問には、100%が肯定的な回答であった。</p>
各アンケート等の結果	<p>生徒・保護者とも概ね肯定的な回答が得られたが、学年間に差が見られる質問項目もあった。</p> <p>①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」についての設問には、生徒の72.2%（1年：73.3%、2年：59.6%、3年：80.8%）、保護者の69.3%が肯定的な回答であった。                  ②「社会のルールや学校のきまり」についての設問には、生徒の88.9%、保護者の95.6%が肯定的な回答であった。                  ③「多様な人と関わり協働した学校生活」についての設問には、生徒の84.3%、保護者の81.6%（「判断できない」9.6%を除くと90.3%）が肯定的な回答であった。                  ④「自ら考えて責任ある行動をとること」についての設問には、生徒の77.8%（1年：70.9%、2年：75.4%、3年：87.7%）、保護者の79.8%（「判断できない」13.2%を除くと91.9%）が肯定的な回答であった。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>※すべての項目とも、生徒・保護者から高い評価が得られており、学校の取組みが概ね浸透、理解されていると考える。</p> <p>①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」、④「自ら考えて責任ある行動をとること」について、生徒の肯定的な回答が学年によって差があることは、学校全体としての課題である。また、①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」について、保護者の否定的な回答が約30%あることは課題である。</p> <p>②「社会のルールや学校のきまり」、③「多様な人と関わり協働した学校生活」について、アンケート結果では概ね肯定的ではあるものの、一部生徒の校外での行動に課題が見られたことは課題である。</p> <p>⇒すべての項目について、家庭・小学校と校外生活も含めた連携を図りながら、よりいっそう社会性の涵養に努めていきたい。                  ⇒集団生活には不可欠なことであるので、今後も指導を継続し、生徒・保護者への更なる浸透を図っていきたい。                  ⇒学校全体での指導体制を確立し、学年間の格差解消に努めていきたい。</p>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の項目で保護者の評価が低い点について、ターゲットを絞った対応をとってほしい。</li> <li>SNSや携帯電話、ゲームの利用時間について、保護者が与えている以上、家庭の問題である。また、遅刻が多いことや小・中で朝食を食べてこない生徒が7割いることについても、本来は家庭の問題である。近所の子どもの面倒を見る温かさが三浦にはあるものの、やはり生徒自身の自立を促すようにするしかないだろう。</li> </ul>
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の定着について、生徒・保護者へのいっそうの働きかけが必要である。学校は関与しないという姿勢ではなく、学校ができることを地域・保護者に呼びかけていく。また、折に触れて生徒への啓発に努めるとともに、保護者と連携しながら丁寧な指導を行っていく。</li> <li>スマホやSNSの利活用の仕方について、保護者も含め学校側からさらなる啓発を行っていく。</li> </ul>

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	○安全・安心な学習環境と開かれた学校づくり
目標（評価規準）	生徒が安全・安心に学校生活を送れる環境づくりに努めるとともに、学校だより等による情報発信や保護者・地域との緊密な連携を通じた「開かれた学校づくり」を進める。	
重点に係る現状 設定理由	コロナ禍の中、学校は生徒の安全・安心につながる場であらねばならないことが再確認された。これまで同様、命や人権の重みを最優先し、生徒が、安全・安心・安定した生活ができる学校を目指したい。また、「地域の学校」として、学校の教育活動の積極的な公開、情報発信に努めるとともに、学校と保護者・地域との相互理解を深め、連携・協力をしながら学校づくりを進める。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<p>教職員の回答は、すべての設問において概ね肯定的であった。</p> <p>①「子どもたちの安全・安心を守ること」について、90.9%が肯定的な回答であった。          ②「命や人権の大切さ」について、100%が肯定的な回答であった。          ③「開かれた学校」について、95.5%が肯定的な回答であった。          ④「教職員の対応」について、95.2%が肯定的な回答であった。</p>
各アンケート等の結果	<p>生徒・保護者とも概ね肯定的回答が得られた。</p> <p>①「子どもたちの安全・安心を守ること」について、生徒の81.5%、保護者の84.2%（「判断できない」12.3%を除くと96.0%）が肯定的な回答であった。          ②「命や人権の大切さ」について、生徒の92.6%、保護者の93.0%が肯定的な回答であった。          ③（保護者）「開かれた学校」について、保護者の86.8%が肯定的な回答をしている。          ③（生徒）「先生はよいところを認めてくれている」について、全国学力・学習状況調査とほぼ同様の81.9%が肯定的な回答であった。          ④「教職員の対応」について、生徒の78.2%（1年：81.8%、2年：77.1%、3年：91.4%）保護者の83.3%（「判断できない」12.3%を除くと95.0%）が肯定的な回答であった。</p>
自己評価結果 （見解と改善方策）	<p>※すべての項目とも、生徒、保護者から高い評価が得られており、学校の取組みが概ね浸透、理解されていると考える。</p> <p>③「開かれた学校」について、新型コロナウイルス感染症による制限がある中、今年度ではできる限りの公開に努め、保護者の肯定的回答も昨年度より微増している。また、広報活動の範囲が限定される状況ではあったが、各種通信類やマチコミを活用して情報公開を積極的に行った。</p> <p>④「教職員の対応」について、生徒の肯定的回答が学年によって差があることは、学校全体としての課題である。</p> <p>⇒①「子どもたちの安全・安心を守ること」、④「教職員の対応」について、学校の取組みをさらに発信し、保護者の「判断できない」回答の解消に努めたい。          ⇒「安全・安心な学習環境」は教育活動の大前提であり、否定的な回答が0となることを目指し、継続して取り組み、さらなる信頼を得られるようにしたい。          ⇒学校全体での指導体制を確立し、学年間の格差解消に努めていきたい。</p>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が楽しいという生徒が多く安心した。</li> <li>・携帯、スマホ、SNSの使用については、各家庭でもっと指導すべきである。</li> </ul>
最終改善方策	<p>○「子どもたちの安全・安心を守ること」や「命や人権の大切さ」については、学校の基盤となる最重点項目であり、更なる徹底を図るべく取組みを充実させていく。</p> <p>○「開かれた学校」や「教職員の対応」について、保護者、地域の学校への理解、協力、信頼を得られる機会と捉え、積極的に情報発信を行うとともに、全教職員が誠実な対応を行っていく。</p>